

平成19年6月27日
消 防 庁

「ウツタイン統計活用検討会」の発足

総務省消防庁は、救急救命士による薬剤投与など救急救命処置範囲の業務拡大やAED:automated external defibrillator(自動体外式除細動器)の使用方法を含む応急手当講習の精力的な実施など、救命率の向上のための施策と環境整備を行ってきました。さらに、平成17年1月から、心肺停止傷病者の救急搬送についてオンラインシステムによりデータを収集しており、これまでの救急業務高度化に向けた施策を客観的な数値として評価することが可能なものも出てきています。

平成18年9月にこのデータから暫定的な分析結果を公表しましたが、今後、収集項目について救急活動の時間経過や救急救命処置、傷病者の予後などのより詳細な分析を行うことで更なる救命率の向上に資することが期待されております。

総務省消防庁は、この貴重なデータをより有効に活用することができるよう、救急業務の高度化に向けたウツタイン統計データの具体的な活用方を検討するため「ウツタイン統計活用検討会」を平成19年7月2日(月)に発足することとしたのでお知らせします。

※「ウツタイン様式」とは、心肺停止症例をその原因別(心臓に原因があるものかそれ以外か)に分類するとともに、心肺停止時点の目撃の有無、バイスタンダー(その場に居合わせた人)や救急隊員による心肺蘇生の有無やその開始時期、除細動の有無などに応じて傷病者の経過を詳細に記録することにより、地域間・国際間での蘇生率等の統計比較を可能とするガイドラインです。1990年にノルウェーの「ウツタイン修道院」で開催された国際蘇生会議において提唱されたことからこのように呼ばれます。

救急搬送の対象となった心肺停止症例について、海外では、都市や地域単位、病院単位で導入した例はありますが、国単位で情報収集するのはわが国が初めてです。

1 検討内容

- ・ ウツタイン統計データの分析に関する専門的な見地からの検討
- ・ ウツタイン統計データの精度の向上方策の検討
- ・ ウツタイン統計データの利用に関する基本的なルールの検討

2 日時等

平成19年7月2日（月）に第1回検討会を開催します。

今後、平成19年度中に検討会を約4回開催し、報告書を取りまとめる予定です。

3 委員等

別紙1参照

4 参考資料

「ウツタイン様式」に基づく心肺機能停止傷病者記録票及び平成17年ウツタイン統計結果（暫定）

別紙2参照

（連絡先）

消防庁救急企画室

担当：荒木専門官、宮本係長

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539

ウツタイン統計活用検討会 委員

(五十音順・敬称略)

- | | |
|---------|----------------------------|
| 朝 日 信 夫 | (財団法人日本消防設備安全センター理事長) |
| 岡 田 基 衛 | (札幌市消防局警防部救急課長) |
| 久保田 勝 明 | (総務省消防庁消防大学校消防研究センター主任研究官) |
| 田 中 秀 治 | (国土舘大学大学院救急救命システムコース教授) |
| 中 山 健 夫 | (京都大学大学院医学研究科教授) |
| 二 宗 伸 介 | (大阪市消防局警防部救急担当課長) |
| 平 出 敦 | (京都大学大学院医学研究科医学教育推進センター教授) |
| 藤 原 静 雄 | (筑波大学法科大学院教授) |
| 益 本 圭太郎 | (消防科学総合センター常務理事) |
| 山 本 保 博 | (日本医科大学救急医学主任教授) |

参 考 資 料

- ・「ウツタイン様式」に基づく心肺機能停止傷病者記録票
- ・平成18年9月8日 報道資料
平成17年統計結果（暫定）
～「ウツタイン様式調査オンライン処理システム」17年中登録データ概要

「ウツタイン様式」に基づく心肺機能停止傷病者記録票

事例No _____ 発生年月日 _____ 年 月 日 性別 男 女 年齢 _____
 救急救命士乗車 あり なし 医師の乗車 あり なし 医師の2次救命処置 あり なし

1. 心停止の目撃

- 目撃、または音を聞いた _____ 時 _____ 分
 家族 その他のバイスタンダー(友人 同僚 通行人 その他)
 消防隊 救急隊(救急救命士隊)
 既に心肺機能停止(発見時)

2. バイスタンダーCPR あり (心臓マッサージ 人工呼吸 市民等による除細動) なし
 バイスタンダーCPRまたは市民等による除細動開始時刻 _____ 時 _____ 分 確定 推定 不明
口頭指導あり

3. 初期心電図波形

- VF(心室細動) Pulseless VT(無脈性心室頻拍) PEA(無脈性電氣的活動)
心静止 その他(_____)

4. 救急救命処置等の内容

- 除細動(二相性 単相性) 初回除細動実施時刻 _____ 時 _____ 分 施行回数 _____ 回
 実施者 救急救命士 救急隊員 消防職員 その他
気道確保 特定行為器具使用(LM 食道閉鎖式エアウェイ 気管内チューブ)
静脈路確保
薬剤投与 初回投与時刻 _____ 時 _____ 分 投与回数 _____ 回

5. 時間経過

覚知 _____ 時 _____ 分 到着 _____ 時 _____ 分 接触 _____ 時 _____ 分 CPR開始 _____ 時 _____ 分 病院収容 _____ 時 _____ 分

6. 心停止の推定原因

- 心原性: 確定 除外診断による心原性
非心原性: 脳血管障害 呼吸器系疾患 悪性腫瘍 外因性 その他(_____)

7. 転帰及び予後

- ・病院収容前の心拍再開 あり なし 初回心拍再開時刻 _____ 時 _____ 分
 1ヶ月予後 (回答: あり なし)
 1ヶ月生存 あり なし

脳機能カテゴリー(CPC)

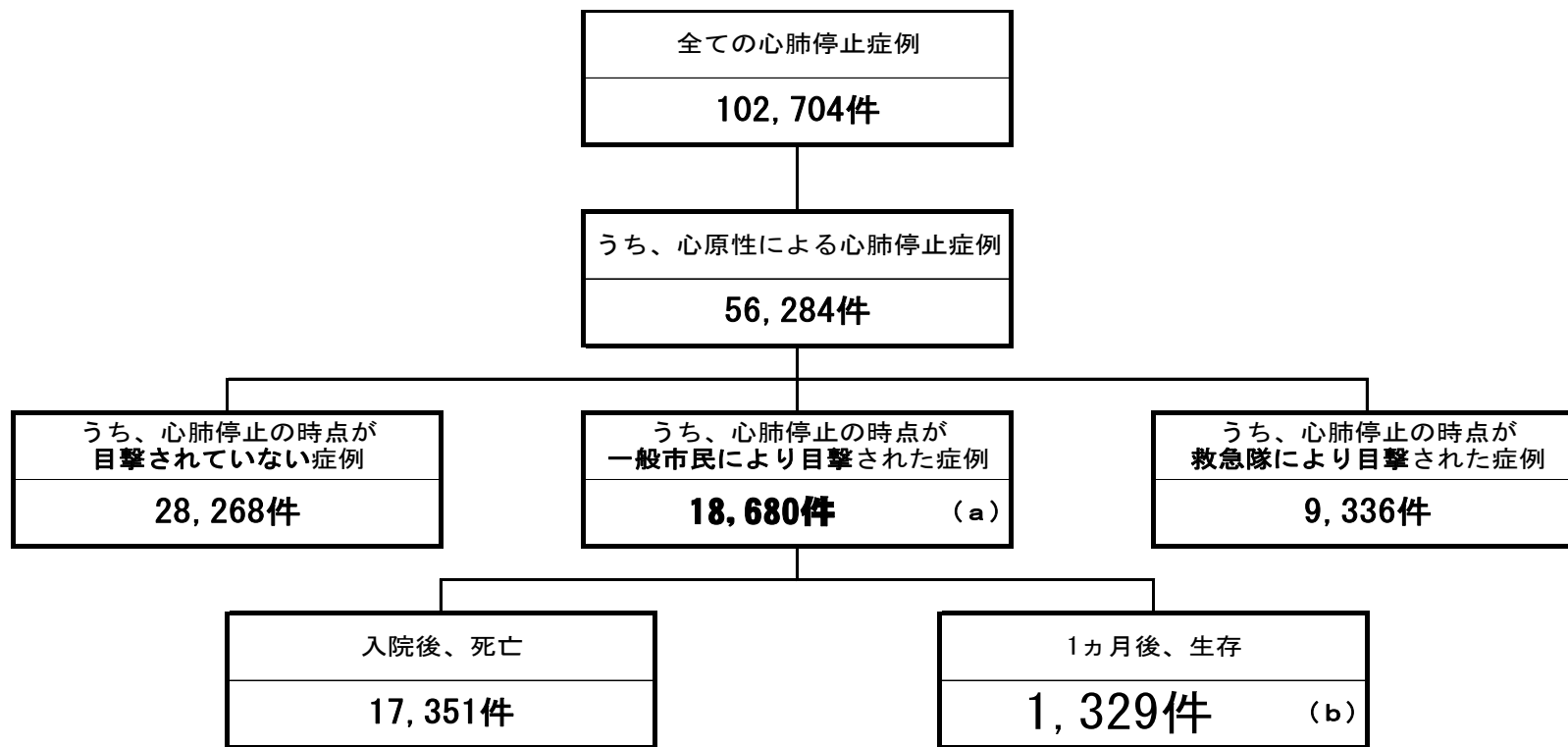
- CPC1 機能良好 CPC2 中等度障害 CPC3 高度障害
 CPC4 昏睡 CPC5 死亡、もしくは脳死

全身機能カテゴリー(OPC)

- OPC1 機能良好 OPC2 中等度障害 OPC3 高度障害
 OPC4 昏睡 OPC5 死亡、もしくは脳死

ウツタイン様式を活用した分析(試行)

これまでの統計調査(救急蘇生指標)と比べて、蘇生が期待できない症例と蘇生可能な症例(目撃された心原性症例)を区別できることから、市民により目撃された心原性症例(18,680件)のうちの1ヶ月後生存例(1,329件,7.1%)をベースとして、試行的に4つの分析を行いました。

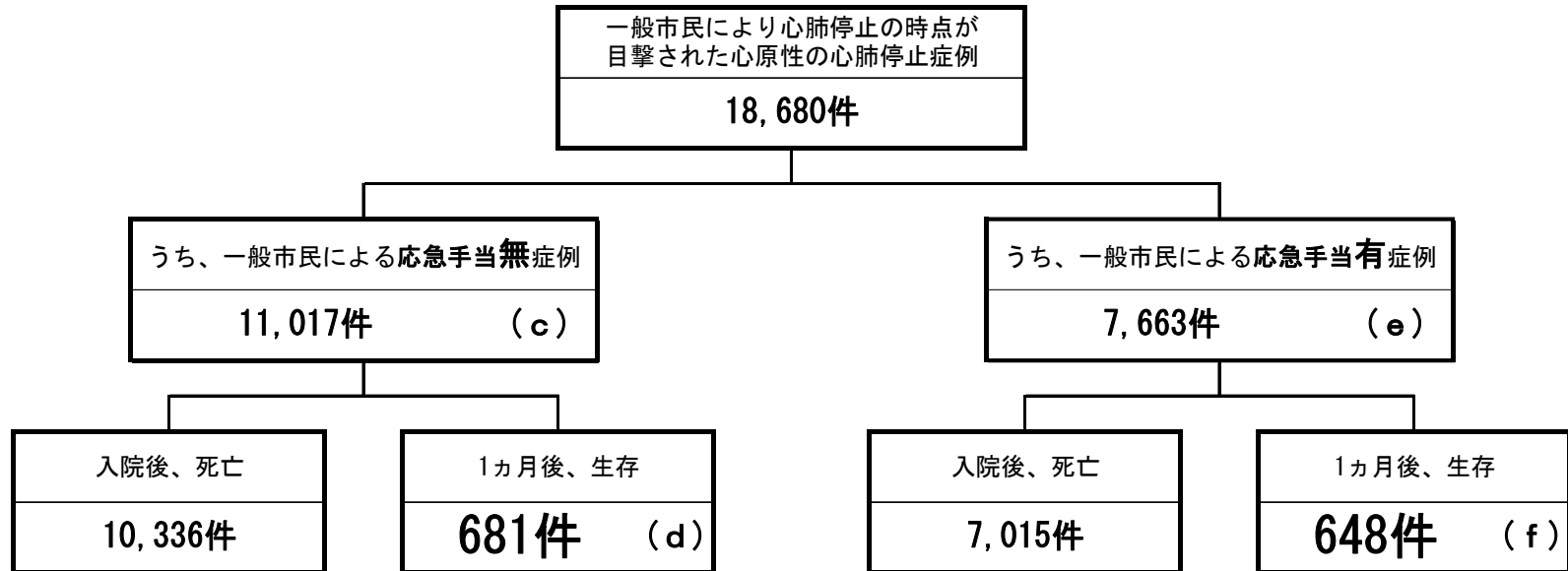


$$\text{生存率} : b / a \times 100 = 7.1\%$$

1 ウツタイン様式を活用した分析(試行)

試行解析例1

バイスタンダーによる応急手当が行われた場合の1ヶ月後生存率は8.5%で、行われなかった場合と比べて、約1.4倍(2.3ポイント)高くなっています。



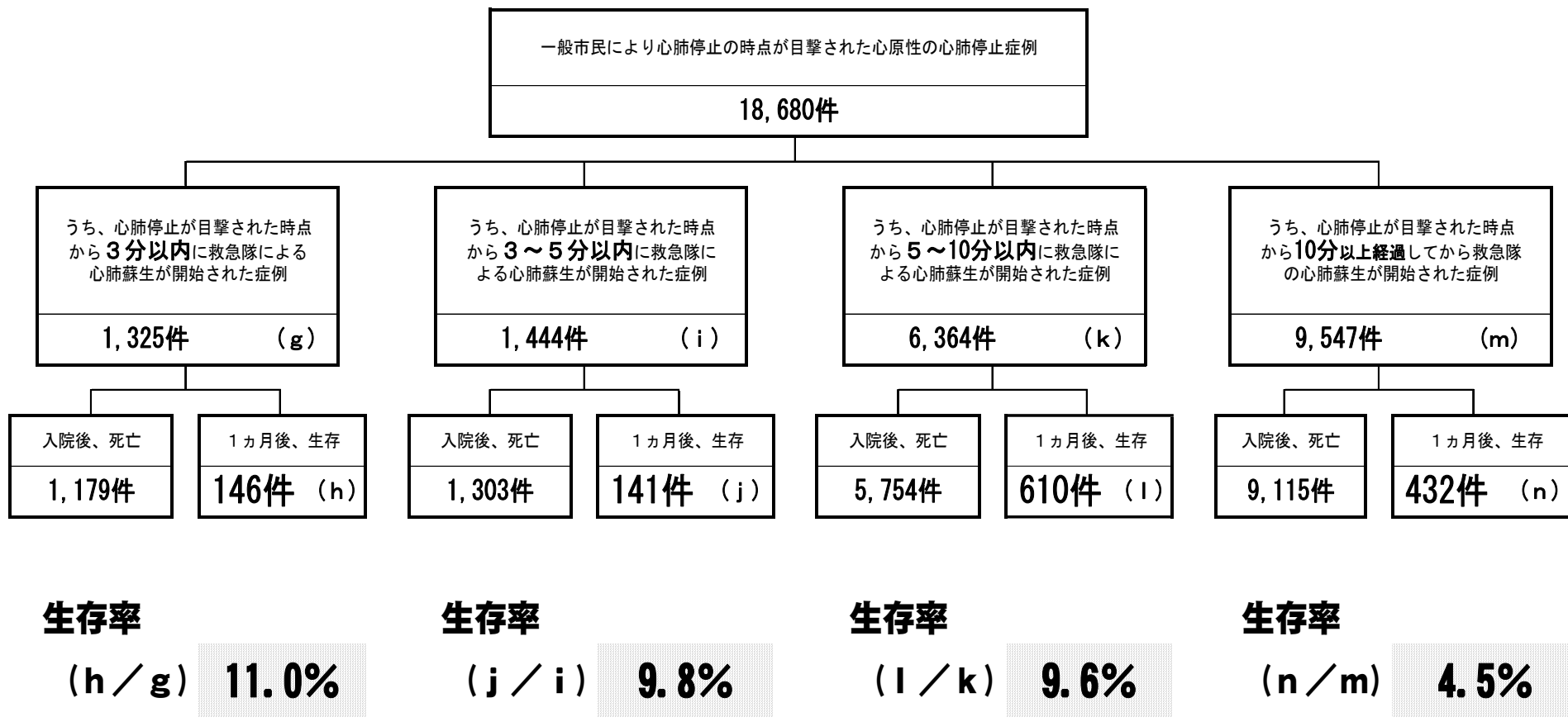
$$\text{生存率} : d / c \times 100 = \mathbf{6.2\%}$$

$$\text{生存率} : f / e \times 100 = \mathbf{8.5\%}$$

2 ウツタイン様式を活用した分析(試行)

試行解析例2

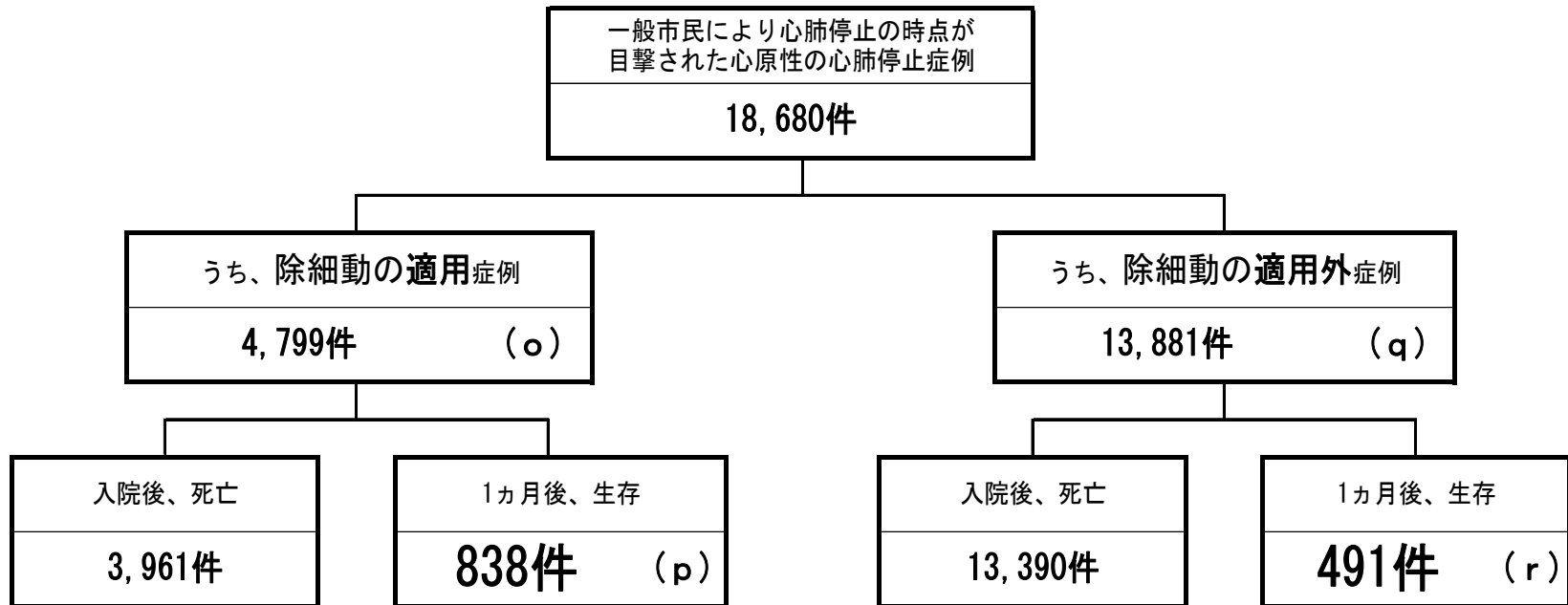
救急隊員による心肺蘇生の開始時点についてみると、心肺停止時点が目撃されてから3分以内なら1ヶ月後生存率は11.0%、3~5分以内なら9.8%、5~10分以内なら9.6%となっており、早期の心肺蘇生の重要性が明らかです。



3 ウツタイン様式を活用した分析(試行)

試行解析例3

電気ショックによる除細動が行われた場合の1ヶ月後生存率は17.5%であり、行われなかった場合と比べて、5.0倍(14.0ポイント)高くなっています。



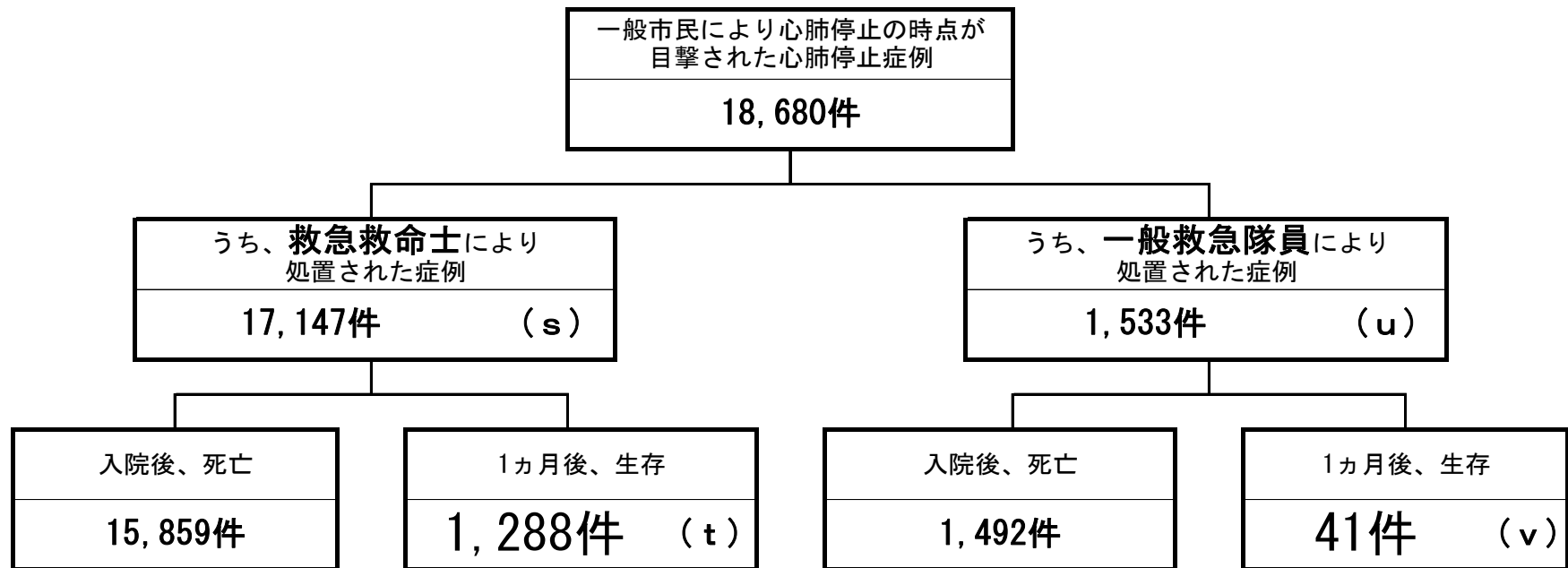
$$\text{生存率} : p / o \times 100 = \underline{\underline{17.5\%}}$$

$$\text{生存率} : r / q \times 100 = \underline{\underline{3.5\%}}$$

4 ウツタイン様式を活用した分析(試行)

試行解析例4

救急救命士の導入効果については、救急救命士によって処置された場合の1ヶ月後生存率は7.5%であり、一般救急隊員によって処置された場合と比べて、約2.8倍(4.8ポイント)高くなっています。



$$\text{生存率} : t / s \times 100 = \mathbf{7.5\%}$$

$$\text{生存率} : v / u \times 100 = \mathbf{2.7\%}$$

ご案内

平成19年6月27日
総務省消防庁

「ウツタイン統計活用検討会（第1回）」の開催

標記について、下記のとおり開催することといたしましたのでご案内いたします。

なお、場所の関係で、椅子席を用意できない場合や、入場を制限させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

記

1 日 時

平成19年7月2日(月) 16時00分から18時00分

2 場 所

東京都千代田区九段北4-2-25

アルカディア市ヶ谷（私学会館） 7階 琴平の間

3 検討内容

- (1) ウツタイン統計活用検討会の目的（ウツタイン様式導入の経緯など）
- (2) これまでの研究・分析の紹介
 - ・ウツタイン統計に関する研究成果の紹介
 - ・既往研究の整理・基本集計の例示
- (3) 今後の研究の方向性について

4 傍聴に当たっての注意事項

- (1) 報道関係者の入室は、15時45分から可能とします。
- (2) 撮影に関しては、冒頭の座長のあいさつが終了するまでとします。
- (3) その他、総務省職員の指示に従うようお願いします

(連絡先)

消防庁救急企画室

担当：荒木専門官、宮本係長

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539